ひつぎし所によりしなるべし、されど鸜鵒郭公もとこれ一物にもあらず、二鳥またホトヽギスといふ者とも見えず、杜鵑の如きは、此に云ひ傳へし所と、漢に云ひ傳へしところと、相合へる事共あり、杜鵑子規等の字は、古人もまた用ひし所とこそ見えたれ、李東壁本草に據るに、杜鵑狀如雀鷂、而色慘黑、春暮卽鳴、夜啼達旦、至夏尤甚、其聲哀切、其鳴如曰不如歸去、田家候之、以興農事、不能爲巢、居他巢生子、冬月則藏蟄、見えしが如き、其形狀相似て、其啼聲も亦相似たり、此にして卯月に來ては夜半に啼くといふが如きは、春暮則鳴、夜啼達旦也、志でのひ子の中のほとゝぎすと云ふが如きは、居他巢生子なり、舜水朱氏も、本國の杜鵑は、其聲高くしてのとは聞えず、唐韻に見えし鸜鵒は、卽爾雅に見えし鵒鵒なり、郭公は爾雅に見えし鳲鳩なり、全是別物なり、其詳なる事をば、東壁本草通雅、正字通等を併見るべし、

〔玉勝間四〕ほとゝぎすを時鳥と書事

文選の悲哉行といふ詩に、時鳥多好音とあるは春の事にて、春鳴もろ〳〵の鳥を時鳥といへる也、されば、ほとゝぎすを時鳥とかくも、その鳴ころ然いへるが、つひに名のごとなれるにや、

〔本朝食鑑六禽〕杜鵑訓保度度木須

釋名、郭公、古稱鸕鷀、源順曰、鸕鷀今之郭公也、必大按、本邦稱郭公者久矣、歌人最言之、然布穀一名郭公、今假用乎、杜鵑近于人家、布穀非深山郊野聞之者希、然則歌人所詠者似杜鵑、不知郭公之名於二物、其所指何是也、鸕鷀亦鶴鵒之名、源順引唐韻證之亦訛矣、萬葉集作霍公鳥、亦未知其證據也、

集解、狀類雀鷂而色灰黑、腹白有鷹斑、翅羽亦有白斑、口中純赤、頭有小冠毛、脛掌蒼色、其前指二後趾二、與諸鳥殊矣、春暮夜夜啼叫達旦、至夏尤甚、晝夕亦啼叫不止而悲切、至秋初而聲止、農家候之以興耕稼、每覔虫蠹而食之、不能營巢而生卵于他鳥之巢、冬月則藏蟄于深山中、凡本邦自古爲哀切之禽、不預賀慶之事、是據亡帝之怨魂乎、荊楚歲時記云、杜鳥初鳴先聞者主別離、學其聲令人嘔血、登厠聞之不祥、厭法但作狗聲應之、本邦亦言、正月元日早晨登厠思杜鵑則凶、或曰杜鵑一名死出田長、以爲冥土之鳥、最可爲昏愚、自古歌人聞初聲則仍費吟情、覔新句也、萬葉集所謂鷽之生卵中霍公則杜鵑生卵于鶯巢中、今亦時見之者多矣、然則生于他鳥巢者必焉、